

# いわて平泉米だより

## 今月は低温時の対策について説明します！

稲が低温に対して弱い時期は、2回ほどあります。これらの時期で一般には、 $20^{\circ}\text{C}$ 以下になると危険と言われていますが、 $17^{\circ}\text{C}$ が2~3日続く様な場合や、 $12^{\circ}\text{C}$ なら1晩でも障害がでます。

1回目は、出穂25~21日前(幼穂形成期、幼穂長2mm)でこの時期に低温になると、不完全花や奇形花が増え、籾数が減ります。

2回目は、出穂13~9日前(減数分裂期)で雄しべの中で花粉を作り出始める時期です。低温になると減数分裂の過程が異常になり、正常な花粉ができず、出穂・開花しても花粉が不能なので受精されないため、籾は稔りません。

このため、幼穂形成期以降には、前歴深水かんがい※や、減数分裂期の深水管理で、幼穂を保護する必要があります。

また、減数分裂期に $17^{\circ}\text{C}$ 以下の場合は15cm以上の深水にして、穂を保護する必要があります。

※低温が予想される場合、幼穂形成期の2~3日前から入水し、徐々に水にならして障害を回避する深水管理の方法です。

